

# 由利本荘市鮎川土地改良区

受益面積 228 ha

- 由利本荘市鮎川土地改良区は、子吉川支流鮎川の左右岸を受益地とする。
- 用水は主として子吉川支川の鮎川から取水するとともに、鳥海山麓の大谷地ため池により用水需要に対し供給量調整を行う。



大谷地ため池



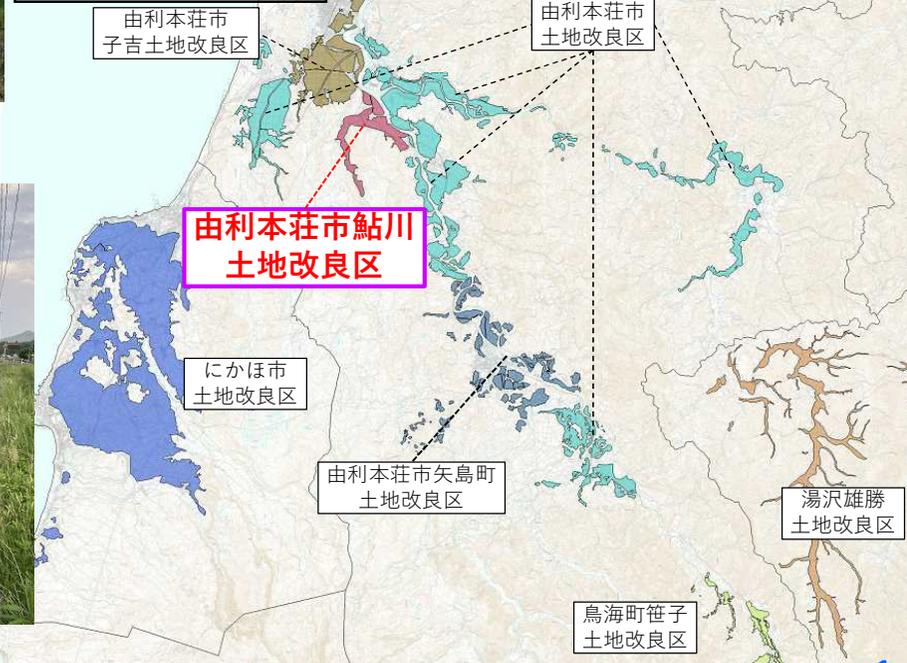
曽根堰頭首工



蒲田頭首工

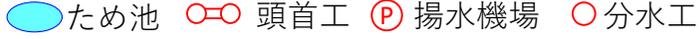


蒲田頭首工掛かり受益地



## 【内 容】

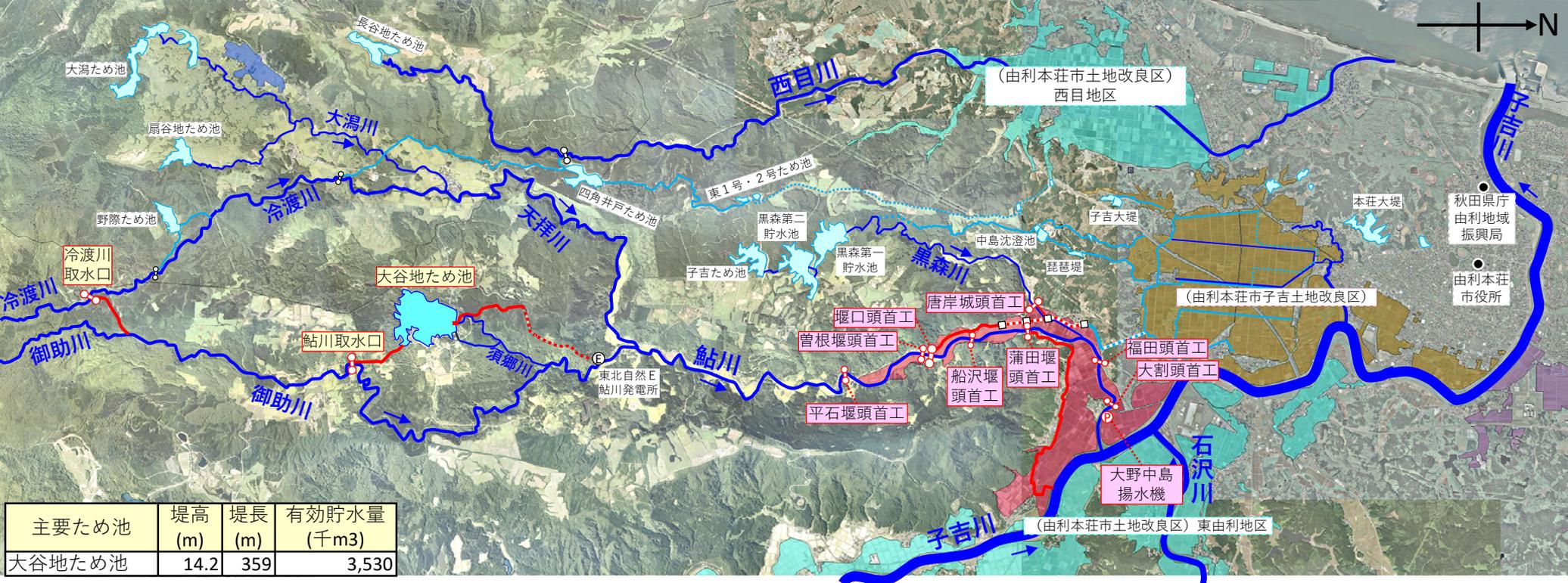
- 農業水利システム（貯水池含む）
- 農業水利システム（受益地）
  - ・（各施設の状況）大谷地ため池①
  - ・（各施設の状況）大谷地ため池②
  - ・（各施設の状況）曾根頭首工・堰口頭首工掛かり
  - ・（各施設の状況）蒲田堰頭首工掛かり
  - ・（各施設の状況）福田頭首工・大割頭首工掛かり
- 施設の維持保全
- ほ場整備
- 土地改良区の歴史
- 大谷地ため池の歴史

作 成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会 秋田県由利地域振興局農村整備課
協 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 由利本荘市鮎川土地改良区</li> <li>・ 由利本荘市</li> <li>・ 秋田県土地改良事業団体連合会</li> </ul>
作成経緯	ver. 1.0 令和7年3月
基本凡例	<div style="text-align: center;">     </div> <p>※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのおりの表記となっていない場合がある</p>
出 典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用） R6JHs 74-GISMAP59536号」</li> <li>航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」</li> <li>衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」</li> <li>・ その他土地改良区提供資料など</li> </ul>
備 考	<p>本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。</p> <p>これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。</p> <p>本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予め了承ください。</p>

# 農業水利システム（貯水池含む）

# 大規模な大谷地ため池を電力・上水と共用し調整容量を確保

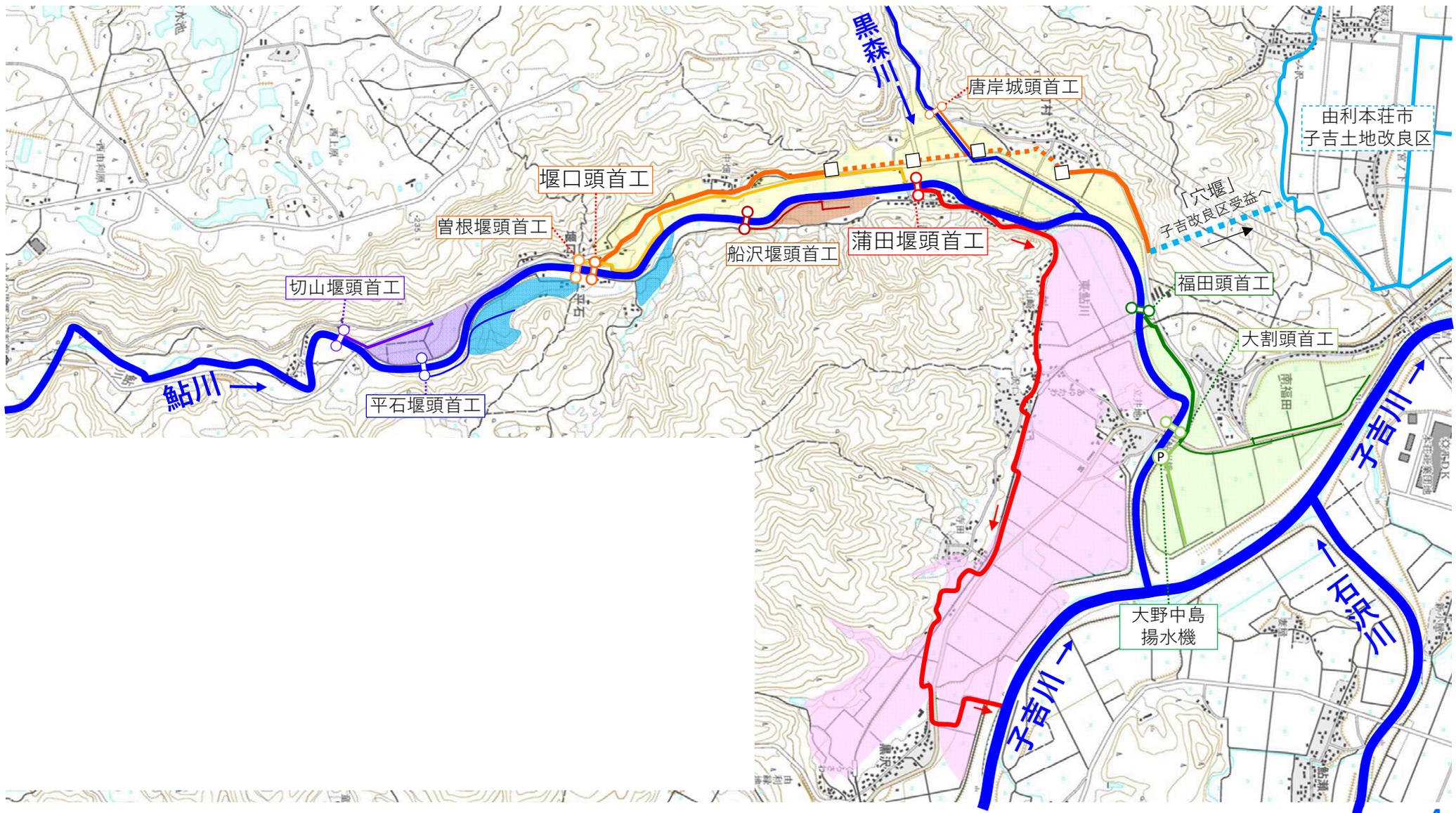
- 鳥海山麓から流れ出る冷渡川（ひえわたしがわ）・御助川（おたすけがわ）等を水源とする大谷地ため池（電力・由利本荘市子吉土地改良区と共用）により、用水需給が逼迫する時期の調整水量を確保。
- 土地改良区の主要な取水施設は堰口頭首工（鮎川左岸取水、由利本荘市子吉土地改良区と共用）と蒲田頭首工（鮎川右岸取水）。
- これらの他、平石堰、曾根堰、福田、大割など小規模な受益地を有する頭首工がある。



# 農業水利システム（受益地）

# 頭首工で取水し開水路により送水するオーソドックスな農業水利システム

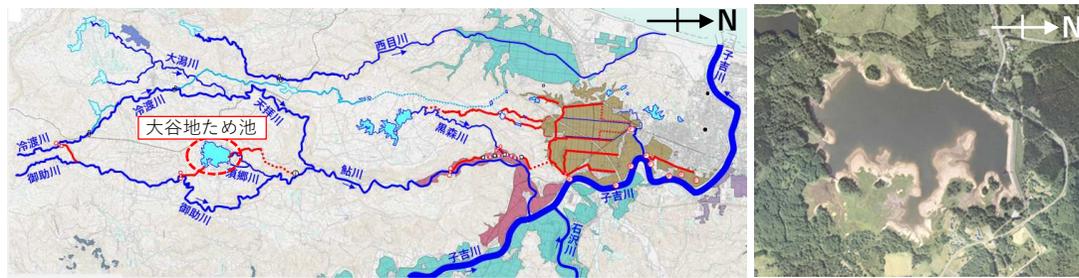
- 由利本荘市鮎川土地改良区の農業水利システムは、ほぼ頭首工から取水し開水路で送水する供給主導型システムとなっている。
- なお、堰口頭首工は由利本荘市子吉土地改良区が操作・管理を行っており、由利本荘市鮎川土地改良区では受益エリアの分水工を操作する。



## (各施設の状況)

### 大谷地ため池① 築造当時、秋田県内一の貯水量を有する人造湖

- 冷渡川・御助川から導水・貯留し、東北自然エネルギー(株)の鮎川発電所を經由して鮎川に放流し、下流に用水供給するため池である。
- かんがい期の操作は土地改良区、非かんがい期の操作は発電所が行い、施設の維持管理は発電所が担う体制となっている。



取水塔



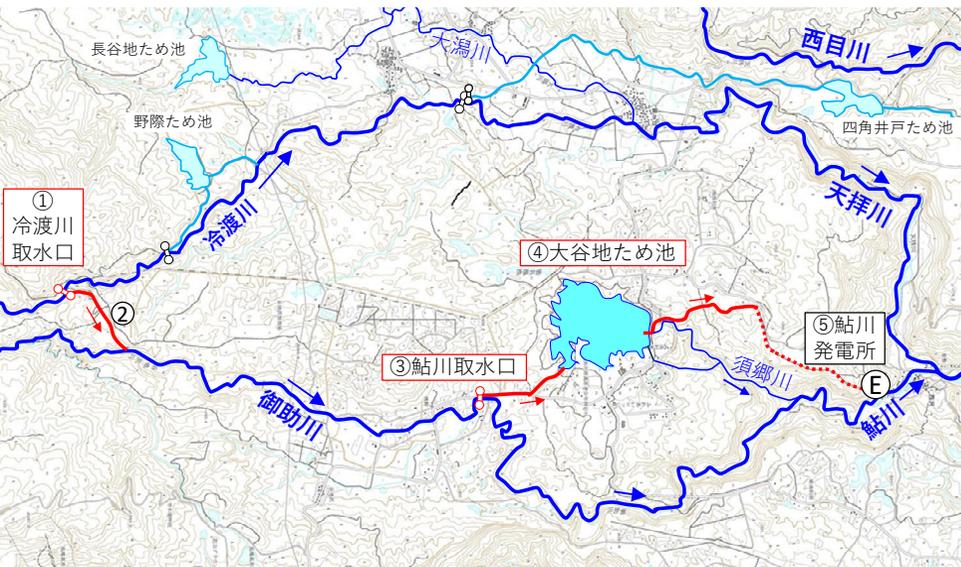
導水路

堤高	堤長	有効貯水量
14.2m	359m	3,530千m3

## (各施設の状況)

### 大谷地ため池② 大谷地ため池への注水・大谷地ため池から鮎川への放流

- 上流域では、電力の冷渡川取水堰により、冷渡川右岸から御助川への流域変更が可能となっている。
- 大谷地ため池には御助川から導水・貯留し、東北自然エネルギー(株)の鮎川発電所を経由し鮎川に放流。
- これら取水口・ため池の操作・管理は電力会社が行う。



バー・スクリーン形式により右岸側で取水可能



導水路は土水路



運転開始	1967年
取水量	1,470 m <sup>3</sup> /s
導水路延長	1,334 m
水圧鉄管延長	1,681 m
落差	190 m
最大発電量	2,300 kw

※東北自然エネルギー株式会社HPより

鮎川下流の  
堰口頭首工で取水

# (各施設の状況)

## 曾根頭首工・堰口頭首工掛かり

■ 曾根頭首工からの用水は堰口幹線水路を横断し受益地へ。

■ 堰口頭首工の幹線水路は開水路→管水路→開水路となる。最終的にはトンネルにより由利本荘市子吉土地改良区受益に至る。



# (各施設の状況)

## 蒲田堰頭首工掛かり

蒲田堰頭首工から取水した用水は、山腹を東→南に迂回し子吉川の上流側まで開水路で送水。途中の複数の分水工から支線に分水する。

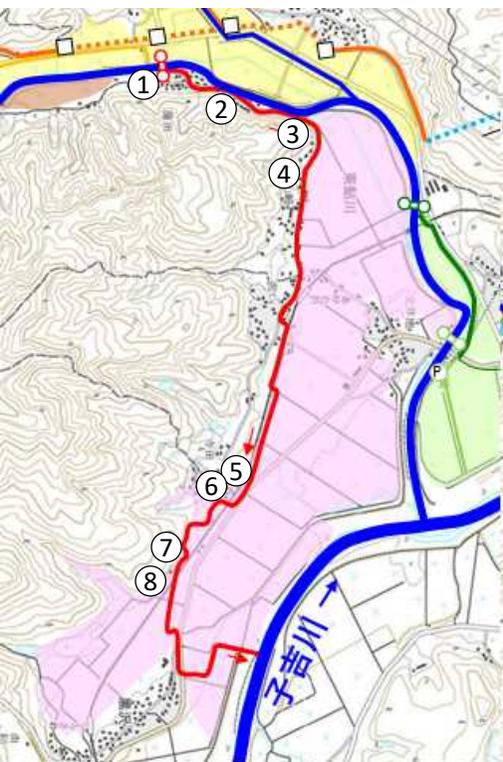
① 蒲田堰頭首工



② 河川放流口



③ 幹線上の分水工・支線水路



④ 幹線水路



⑤ 幹線上の分水工・支線水路



⑥ 幹線水路



⑦ 幹線上の分水工



⑧ 幹線水路の流末



## (各施設の状況)

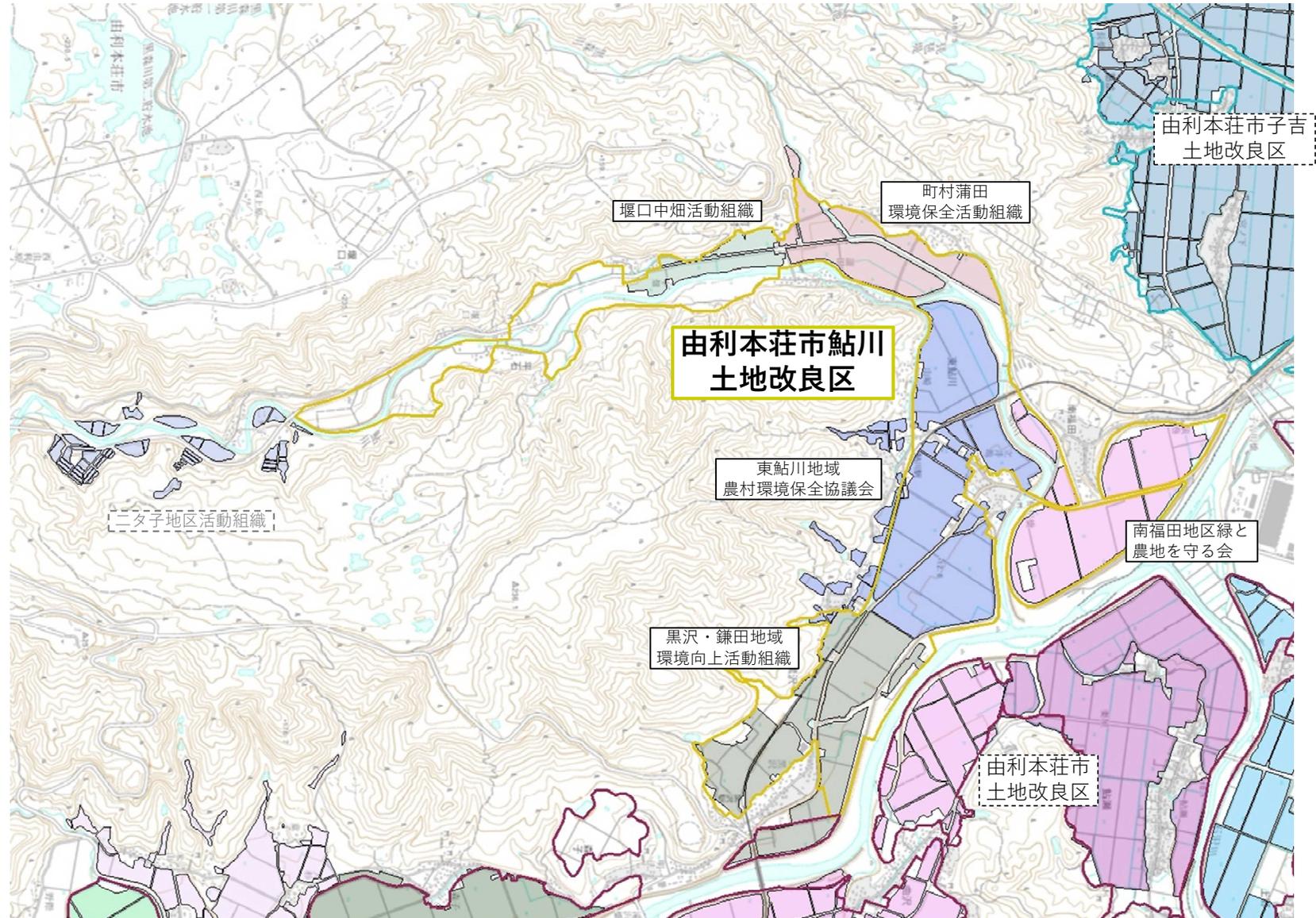
## 福田頭首工・大割頭首工掛かり

- 福田頭首工・大割頭首工等から取水した用水は、鮎川下流左岸・子吉川左岸の受益地に送水される。
- 大割頭首工から少し下流地点付近では、福田頭首工・大割頭首工・大野中島揚水機からの用水路が並行し、それぞれの受益地に向かう。



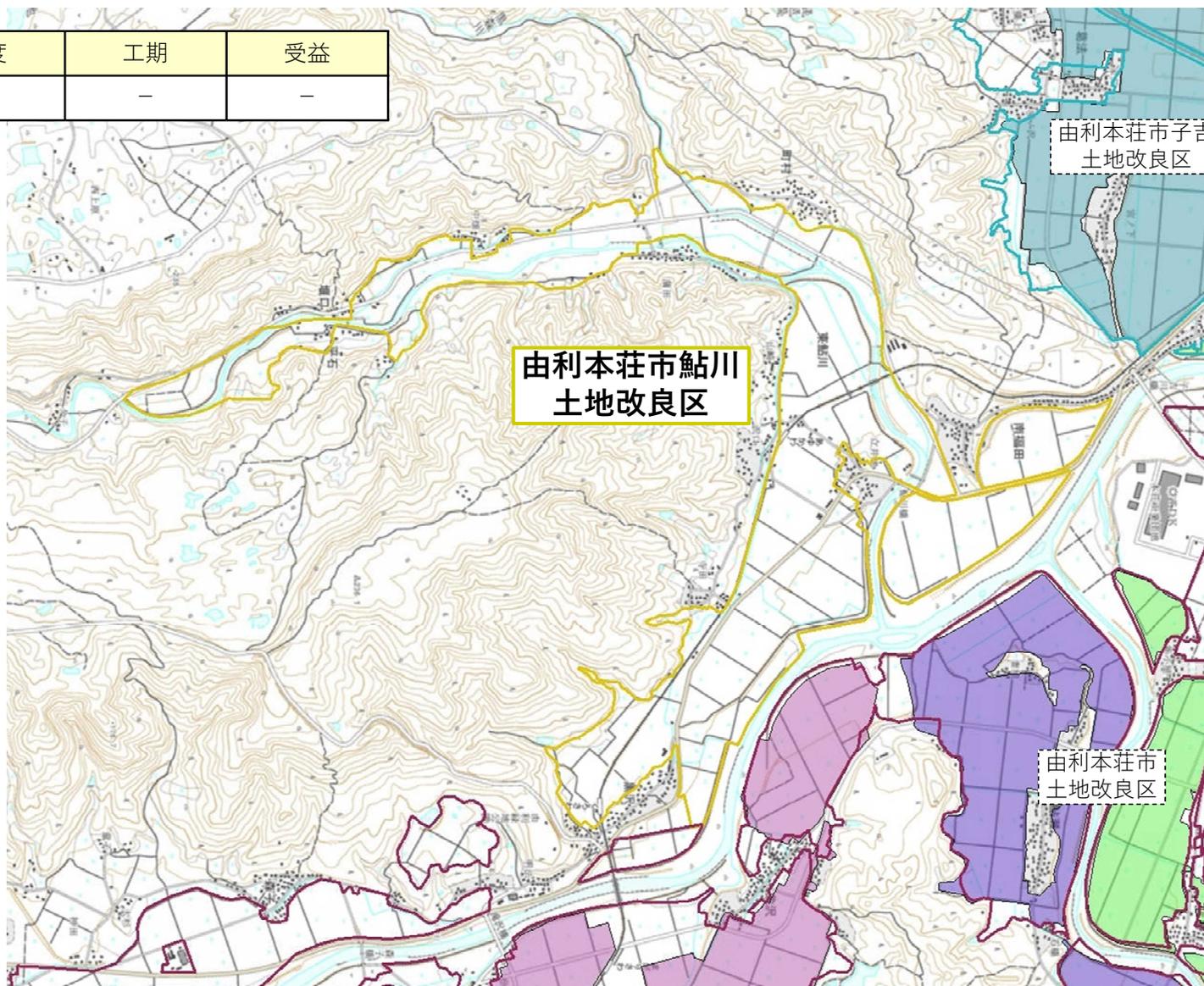
# 施設の維持保全 管内の大半の地域において多面活動の組織が存在

- 旧本荘市における土地改良区の受益地内に5組織が存在。土地改良区による事務受託は無い。
- うち4組織が共同活動まで実施している。



■ 由利本荘市鮎川土地改良区の受益地は、ほ場整備未実施エリアに分類される。

地区名	制度	工期	受益
-	-	-	-



昭和27年～



由利本荘市鮎川 土地改良区

地域の土地改良の歴史

17世紀頃 又はそれ以前	堰口～唐岸城～子吉まで導水する蛇喰堰（じゃばみぜき）（又は宮内堰とも言う）の開削。当時の路線は不明だが、明治初期には堰口から鳴沢台を迂回し子吉村に至り総延長約6km。
1907-1922 (M40-T10)	子吉村における耕地整理事業の実施（受益面積542ha→575ha）。同事業の一環として1909年（明治42年）に子吉村に抜ける宮下隧道（通称「穴堰」）開削。これにより蛇喰堰の総延長は3kmとなった。
1910 (M43)	大谷地ため池の築造に着手
1921 (T10)	大谷地ため池の5m嵩上げ
1942-1956 (S17-S31)	県営鮎川筋用水改良事業により大谷地ため池の改修工事 （堤体の嵩上げ：H=14.2. L=359.0m, V=3,530千m <sup>3</sup> , 受益地1,200ha）
1966 (S41)	鮎川発電所の建設（大谷地ため池の用水を利用し、最大1.47m <sup>3</sup> /s、落差190m、最大2,300kw。東星興業株式会社が管理し東北電力に売電。現在は東北自然エネルギー株式会社が運用）。取水操作について、かんがい期は鮎川・子吉土地改良区、非かんがい期は発電所が行う。維持管理は発電所

伊藤吉郎（19xx）「宮下の『穴堰』のこと」『●●●●』，藤田真利子（2003）「秋田県由利町を中心とする河川灌漑と溜池灌漑の特色」『秋大地理』50, pp.39-42

## 大谷地ため池の歴史

## (1) ため池の築造

- 明治時代以前より鮎川村（現在の由利本荘市鮎川土地改良区管内）と子吉村（現在の由利本荘市子吉土地改良区管内）は主に鮎川より取水しており、用水不足により水争いが絶えなかった。
- 明治42年に子吉村・鮎川村を対象とし耕地整理事業が実施（子吉村への穴堰はこの際に整備）。
- 用水不足の解決のため、直後の明治43年に大谷地ため池を築造（L-118m, 満水面積35ha）。

## (2) ため池の嵩上げ

- 大正10年には護岸工事（野石張）とともに堤体を嵩上工事に着手し大正11年に完了（貯水位1m上昇）。
- 子吉村では依然として用水が不足しており、この確保のため昭和17～31年にかけて県営鮎川筋用水改良事業により、大谷地ため池の堤体嵩上げを実施（H=14.2. L=359.0m, V=3,530千m<sup>3</sup>, 満水面積65ha）。

## (3) 発電所の建設

- 昭和41年に大谷地ため池の水を利用する鮎川発電所建設。現在、同発電所は東北自然エネルギー株式会社により運用されており、大谷地ため池についても同社が管理している。

※ 第一展望台の看板、記念碑、顕彰碑、東北自然エネルギー株式会社HP等を参考とした

## 大谷地溜池記念碑

抑毛耕地の開拓は水源の如何に依りて定まる 由耒鮎川河水量に乏しく一村耕地の灌漑を充すに足らず 是れ當業者の多年憂慮して止まざりし●以ふる 時恰も明治四十二年九月耕地整理企業の議興る 然当に有志間には水源涵養残先決せんと力説するもの阿る 是れ一面従来係争せる子吉村との分水問題を解決し以て一村の福利を永久に保障する一挙兩得の良業なりとせる 當時衆議決せず徒らに曲折して荏苒日を送る ●と淹し是時に除し木内鉄治郎氏率先組合長佐藤力之助氏を激励し自ら難局を打解し 地を天興の大谷地に決して築堤の工を起し 至誠奉公終始一貫統督の任に當り 手餘にして其の工を竣へ以て鮎川百年の大計を樹る 是れ素より天祐の加護阿らむも氏の功績興りて力ありと云ふべし 茲に碑に詠して敢を後昆に傳ふ而以なる 昭和三年三月



## 木内鐵治郎顕彰碑

凡そ經國濟民の本義は治山治水にあり 興農振作の基は水利の整備にある 往時より鮎川村は灌漑取水の大半を鮎川水系に求め 剩さえ子吉村との共有水利権の慣行から配分水量極めて乏しく 取水をめぐる激烈不毛の抗争が荏苒久しきに及んだ

明治四十二年村民有志による耕地整理組合が設立されるに至り 氏は指導責任者となり抜群の行動力を以て短期間に區劃整理事業を完成した

氏はまた耕地整理と一体をなす灌漑水利の整備を企画し 水源地を求め鳥海山麓をくまなく跋渉深査し遂に南由利原に適地を発見するに至った 即ち現在の大谷地溜池である

明治四十三年着工以来氏の献身的努力と村民の協力が結実し大正十一年に完成をみた 総面積三十余町歩、給水日数六十余日とされる

仰げば靈峰鳥海の雄姿 俯すれば幽玄碧水の大谷地 眺望絶佳のこの地に一基の碑を建立し 敢えて氏の遺業を後世に顕彰せんとするものである

昭和五十四年六月十一日  
由利町鮎川土地改良区建之



※ 大谷地ため池第1展望台の石碑及び近傍の木内神社の石碑より。●は判読不能の文字。片仮名は平仮名とし、一部の漢字は常用漢字としている。